令和6年度
取組結果

地域林業の効率化･省力化に向けて

上川北部森林管理署

目　標	国有林の造林作業の軽労化を民有林へ普及拡大

取組内容

【民有林における機械による下刈の現地検討会】及び【現地検討会後のフォローアップ意見交換会】

民有林での下刈に機械の活用を促進させるため、７月に民有林関係者を主体として下川町有林で下刈機械の現地検討会を開催し、機械の操作性や性能、機動性について実際に見てもらった。そのアンケート結果では、９割以上が下刈作業の機械化は「必要」と回答した一方、「伐根・末木枝条処理」や「地拵・植栽仕様の変更」が課題との意見が多かった。

その課題解決に向けたフォローアップ意見交換会を11月に開催し「国・道・町」の取組み成果や課題への対応等について、情報提供し意見交換を実施した。

現地検討会空撮

意見交換会

【人材確保につなげる森林・林業の魅力を
伝える森林教育の拡大】

従来の様々な森林教育・イベント・林業体験実習に加え、小学生や中学生への更なるアプローチを検討する中で下川町教育コーディネーターと連携することができ、新たな森林・林業の魅力を発信する場を得ることができた。

インターンシップ受け入れ

結果

下刈機械を活用するためには、地拵・植付段階からそれを想定して作業すること、伐根処理には様々な機械や手法があること、機械地拵後の２～３年は下刈が必要ないこと、機械購入補助は来年度も実施されること等、理解を深めることができた。

意見交換する中で、「林野庁の標準単価」は肩掛け式刈払い機のみでその他の設定がないため「道の標準単価」にも反映されていないことが浮き彫りとなった。

先行導入した北海道国有林が実績に基づいた情報を継続して広く発信していく必要性がある。

中学生の職場体験は年間スケジュールの関係から年度途中からは無理であったが、最近は関係性のなかった「下川商業高校」からインターンシップを受け入れることができた。

その報告会が中・高合同で行われ、間接的に中学生に対してのPRとなったことやアドバイザーとして出席した当署からも情報発信することができた。

今年度の総括
次年度の予定

フォローアップにより課題解決に向けた情報を各機関から提供して頂き認識が深まったことや、そうした課題を整理したところ、民有林での取組みが進まない本質が見えてきた。

次年度は、下刈機械の購入に向けて検討している自治体があることから、必要な支援や連携を強化し、国有林の実績とともに民有林における取組み実績を情報発信し普及拡大に繋げる。